

平につたわる ふるい おはなし

むかし、平のむらにすんでいた 三郎さんが、
こんにゃく坂のおじぞうさんに
「おとうさんの 病気を なおしてください」といいながら、
おかあさんがつくった 赤まんま(赤飯)のおにぎりを そなえた。

すると 豆だぬき(こどもの たぬき)が
でてきて、
「その 赤まんま、ちょうだい」といった。



おじぞうさんは にっこり わらって、
「豆だぬきは くいしんぼうじゃのう。
さぶろうや、その おにぎりを、豆だぬきに やっておくれ。
そのかわり 豆だぬきは、
たぬきの くすり を もってこい。」

豆だぬきは 大よろこびで、山から くすりを もってきた。

そのくすりをのむと、おとうさんの^{びょうき}病気がなおった。

みんな^{おお}大よろこび、だんごをたくさんこさえて
にぎやかにおいわいた。

そのころ^{やま}山のほうからも^{ぽんぽこ}ポソポソ^{ぽんぽこ}ポソポソ、
にぎやかなたぬきばやし^{きこえてきた}がきこえてきたということです。

※こんにやく^{さか}坂は、^{ひら}平と^{うめ}梅の^{さと}里のあいだにあります。

※くわしくは「^{とんだばやし}富田林の^{みんわ}民話」(富田林民話研究クラブ編著)を
^よお読みください。本校の^{ほんこう}図書室や^{としょしつ}市立図書館^{しりつとしょかん}にあります。